資料１

観光振興の重要性・財源確保の必要性について

令和5年（2023年）10月31日開催　第１回熊本市宿泊税検討委員会

目次

観光振興の重要性・財源確保の必要性について

1　検討の背景

（1）観光分野における新たな財政需要 ・・・

1　検討の背景

(1)観光分野における新たな財政需要

ア　全国的に人口減少が進み、地域の経済産業活動の縮小が懸念される中、交流人口を拡大させ、波及効果の裾野が広いことから地域経済の活性化に大きく貢献する「観光振興」の重要性が高まっている。

イ　本市の観光は、新型コロナウイルスにより大きな影響を受けたが、令和4年（2022年）からは回復傾向が見られており、今後は、旅行需要全体の早期回復とさらなる発展を目指す必要がある。

ウ　全国的なインバウンドの増加やTSMCの進出等により、本市への外国人観光客数の増加も期待される中、多様化する旅行者のニーズを適切にとらえ、受入環境の向上や観光コンテンツの拡充等、旅行者が快適に過ごせるような観光まちづくりに資する施策を展開していく必要がある。

(2)熊本市の財政状況と新たな財源確保の必要性

ア　本市の人口は、令和2年（2020年）国勢調査で減少に転じており、将来的にも人口が減少していくと考えられ、市税収入の減少の可能性等が懸念される。

イ　本市の歳入については、他の政令指定都市と比較して、自主財源比率や市民一人当たりの市税収入が高いとは言えず、自主財源の確保が課題である。

ウ　このような状況の中、観光施策を継続的に展開していくための安定的な財源確保について検討が必要である。

2　熊本市の観光について

(1)日本の観光を取り巻く状況

ア　人口減少・少子高齢化の進行

　人口減少・少子高齢化の進行により交流人口や消費活動の減少が見込まれ、都市としての活力が低下することによる更なる交流人口の減少が懸念される。

イ　旅行需要の回復

　国内旅行は、全国旅行支援等の需要喚起策の効果もありコロナ禍前と同水準まで回復。インバウンドも、令和5年（2023年）4-6月期の旅行消費が令和元年（2019年）同期比97.2%となるなど、回復傾向にある。

ウ　旅行者の行動や意識の変容とニーズの多様化

　サステナビリティに対する関心の高まりやコロナ禍の経験、個人旅行の増加（団体旅行の縮小）等により、旅行者の行動や意識の変容とニーズの多様化が生じている。

エ　持続可能な観光地域づくりの推進

　観光産業において、デジタル化の遅れ等による生産性の低さや人材不足といった構造的課題がコロナ禍で顕在化。観光振興による地域社会・経済の好循環を生む仕組みづくりが期待される。

2019年同期
（1兆2,673億円）
比97.2%

出典：【訪日外国人消費動向調査】2023年4-6月期の全国調査結果（2次速報）の概要

出典：観光庁 観光立国推進基本計画（第４次）

2　熊本市の観光について

(2)熊本市の観光を取り巻く状況

ア　本市の旅行需要は、平成28年（2016年）熊本地震により大きく減少した後、熊本城復旧過程の特別公開等により順調に回復していたが、令和2年（2020年）の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い再び大きく落ち込んだ。

イ　令和4年（2022年）は、宿泊需要喚起策の実施やイベントの開催等により国内旅行に回復傾向が見られ、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行等を受けて、今後も回復傾向が続く見込み。

ウ　インバウンドも、国の水際対策の終了に伴い回復傾向にあり、また、本市においてはTSMCの進出や国際線定期便の再開・新規就航も予定されていることから、さらなる需要増加が見込まれる。

エ　観光を含む交流人口・関係人口の重要性が増す中、訪れる人・住む人に優しい魅力的なまちづくりへの取り組みとして、各都市において再開発等が活発に行われており、今後の観光・MICE市場における都市間競争の激化が予想される。
　本市においても、熊本駅周辺の整備や桜町地区の再開発をはじめ、訪れてみたい、ずっと住みたい「上質な生活都市」を目指しまちづくりに取り組んでいる。

阿蘇くまもと空港における国際線就航先

九州各都市における再開発の動き	
北九州市	2024年度より、JR小倉駅・黒崎駅周辺で容積率の緩和・財政支援・企業誘致が予定されている。
福岡市	天神・博多地区で、容積率や高さ制限の緩和により再開発を誘導。市独自のハイクオリティホテルの建設促進制度創設やウォーターフロント地区でのクルーズ機能強化に取り組んでいる。
長崎市	JR長崎駅、市中心部で、新市庁舎、MICE施設建設等の再開発が進み、高級ホテル開業も予定されている。
熊本市	桜町・熊本駅地区を整備。中心市街地では、容積率や高さ制限の緩和・財政支援により民間投資を促す「まちなか再生プロジェクト」に取り組んでいる。
鹿児島市	JR鹿児島中央駅と天文館の中間で、回遊性を高める拠点として複合ビルの整備が計画されている。

2　熊本市の観光について

(3)熊本市の観光の状況

ア　入込数、宿泊者数、観光消費額等の状況

本市の入込数、宿泊者数、観光消費額は、平成28年（2016年）年の熊本地震により大きく減少した後、熊本城復旧過程の特別公開や令和元年（2019年）の国際スポーツ大会開催などにより順調に回復していたが、令和2年（2020年）の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い再び大きく落ち込んだ。

令和4年（2022年）は、宿泊需要喚起策の実施や国際会議及びイベントの開催等により回復傾向が見られ、今後も、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行や国の水際対策の終了等を受けて引き続き需要の回復が見込まれる。また、コンベンションや修学旅行についても、同様に回復傾向にある。

出典：熊本市観光統計

２　熊本市の観光について

イ　外国人宿泊者数の状況

外国人宿泊者数についても、令和4年（2022年）に回復傾向がみられる。

令和5年（2023年）1～7月の宿泊者数が令和4年（2022年）の実績を超えており、世界的な観光客数や訪日外国人旅行者の回復傾向や、本市においてはTSMCの進出や国際線定期便の再開・新規就航等も予定されていることから、さらなる需要の増加が見込まれる。

ウ　宿泊稼働率の状況

宿泊稼働率についても、宿泊施設数が増加している中でも回復傾向がみられる。

令和5年（2023年）の宿泊稼働率は、コロナ禍前の令和元年（2019年）に近い水準まで回復している。

外国人宿泊者数の推移

R5(2023)外国人宿泊者数の推移

宿泊稼働率の推移

R5(2023)宿泊稼働率の推移

出典：年次推移…熊本市観光統計　R5（2023）推移…観光庁 宿泊旅行統計調査（令和5年1～7月 第2次速報値）

2　熊本市の観光について

(4)熊本市における観光振興の重要性

ア　観光産業は裾野が極めて広く、経済・産業への生産波及効果により地域経済の活性化に寄与するものである。全国的に人口減少が進む中、本市経済の持続的な発展のためには、観光施策を積極的に展開し、交流人口・関係人口の拡大と地域経済の好循環を生み出す必要がある。

イ　本市への観光客入込数は回復傾向にあり、今後はインバウンドの増加も予想される。変容・多様化する旅行者のニーズを適切にとらえ、受入環境の向上や観光コンテンツの拡充等の観光施策を展開する必要がある。

観光施策の展開による地域経済の好循環のイメージ

観光消費がもたらす経済波及効果(平成27年熊本市産業連関表経済波及効果分析ツール「観光・イベント用」を用い、令和4年(2022年)熊本市観光統計における観光消費額を基に算出)

各産業に広く
生産・雇用を誘発

2　熊本市の観光について

(5)熊本市の観光施策の方向性

ア　令和5年度（2023年度）の観光関連施策

観光客誘致体制の強化	効果的なプロモーション活動の展開	観光客誘致（国内外）、教育旅行誘致・助成、WEBサイト・SNSによる情報発信、各種調査（旅行者アンケート、統計・市場調査）　など
	観光客受入体制の充実	観光案内所の運営、地域通訳案内士の育成、着地型旅行商品の造成、観光施設・観光案内サインの維持管理、観光パンフレットの制作、配布　など
観光資源の魅力の創造と向上	イベントによるにぎわいの創出	火の国まつり、江津湖花火大会、熊本城マラソン等の開催　など
	熊本城の着実な復旧と公開	桜の馬場観光交流施設の管理運営、熊本城の定点ガイド、熊本城おもてなし武将隊、熊本城シャトルバス運行　など
	動植物園の魅力向上	熊本市動植物園の管理運営、WEBサイト・SNSによる情報発信　など
MICEの推進	MICE誘致活動の展開	MICE誘致（国内外）、MICE開催助成、ユニークベニューの開発・利用促進、熊本城ホールの管理運営、スポーツコンベンションの推進

※熊本市が補助金を交付し（一財）熊本国際観光コンベンション協会が実施する観光客誘致事業及びコンベンション誘致事業を含む

イ　観光施策の今後の方向性

観光産業の人手不足や人口減少による今後の国内市場の縮小などの課題、コロナ禍を経た旅行者の行動・意識の変容やサステナブルな観光への意識の高まりなどのニーズの多様化の状況を踏まえ、本市経済の持続的な成長に向けて観光振興への取組を強化していくための指針として、旅行者の志向や動向などのデータ分析、各分野の関係者及び市民からの意見等に基づく「（仮称）熊本市観光マーケティング戦略」の策定を進めている。（次頁参照）

２　熊本市の観光について

【参考】(仮称)熊本市観光マーケティング戦略(案)

方針１　世界に選ばれる観光都市・熊本の創造

熊本城をはじめとする歴史文化や世界に誇る水資源、中心市街地の賑わいなどの、熊本市ならではの観光資源の魅力向上や高付加価値化を図り、観光都市としてのプレゼンスを高める。

【基本施策】

- **熊本城の魅力の最大化**
- **世界に誇る水資源のブランディング**
- **熊本市ならではの観光資源の魅力創出**
- **熊本市の“まち”の魅力の発揮**

〔取組例〕
- 熊本城内でしか味わえない体験型プログラムの創出
- 地下水都市を象徴する水前寺、江津湖地区の回遊性向上　など

方針２　訪れる人に優しい滞在環境の構築

質の高い観光情報の発信や目的地までの移動の円滑化、快適で安心・安全な滞在環境の構築に取り組み、国内外の旅行者の満足度向上を図る。

【基本施策】

- **質の高い観光情報の発信**
- **目的地までの移動の円滑化**
- **快適で安心・安全な滞在環境の構築**

〔取組例〕
- 観光案内所の機能強化
- 観光施設間等の交通アクセス、案内情報等の充実　など

方針３　強みを活かした戦略的な誘客促進

国内外の市場調査を踏まえたニーズ把握や、戦略的なプロモーション、熊本ならではのＭＩＣＥの推進、ファンと一体となった情報発信などの戦略的な誘客を図る。

【基本施策】

- **マーケティングに基づくニーズ把握**
- **戦略的なプロモーション、熊本ファンと一体となった誘客促進**
- **熊本ならではのＭＩＣＥの推進**

〔取組例〕
- ターゲット設定に基づくプロモーションの展開
- 医療系や半導体に関連する国内会議の誘致の推進　など

方針４　観光振興を通じた熊本市の活性化

観光産業の経営基盤強化や市民と旅行者による持続可能な観光まちづくりの推進に取り組み、観光振興を通じた熊本市の活性化を図る。

【基本施策】

- **観光産業の経営基盤強化**
- **持続可能な観光まちづくりの推進**

〔取組例〕
- 観光サービスの高付加価値化、生産性向上支援
- 旅行者への地域コミュニティや環境への配慮や理解促進　など